

(カ) ブナ

ブナの影響予測結果と確認状況を表 6-11 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるブナの確認地点を図 6-12 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内では確認されず、改変エリア境界から 60m 範囲の 13 地点で確認された。

改変エリア内では、環境影響評価時に生育が確認された 2 地点は、予測結果のとおり事業により消失したと考えられる。

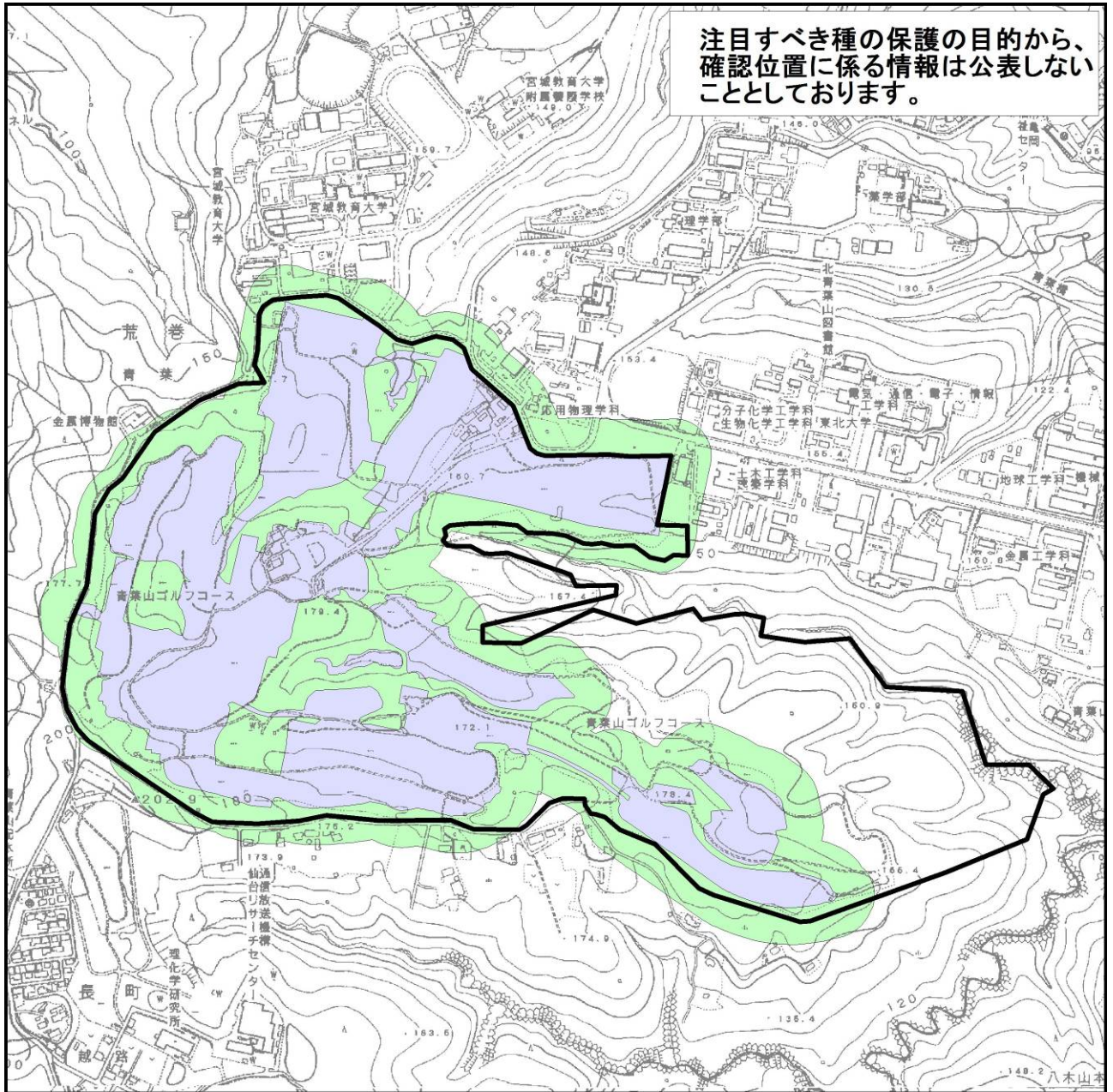
改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時よりも多くの地点で本種の生育を確認したことから、事業による本種への間接的影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

なお、本事業では、対象事業実施区域での保全地域の確保に努め、既存樹林地を極力残しており、残存緑地において本種の生育環境は確保されていると考えられることから、事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲内で最大限の低減措置が図られていると考えられる。




表 6-11 影響予測結果と確認状況（ブナ）（植物：6/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	改変エリア境界から 60m 範囲
ブナ	生育地点での地形の改変などにより 24 地点*1のうち 2 地点が失われる。保存される生育地点の中には [] や、 [] に近い林縁部のものもあることから、間接的な影響は少ないものと考えられる。	影響小（影響個体が少ない）	環境影響評価（H17）	2	10
			供用後の事後調査（H25）	0	13

*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。




凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

H25確認種

-  ブナ

H17確認種

-  ブナ

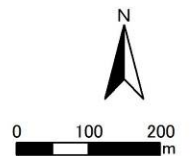


図 6-12 ブナ確認地点

(キ) イヌブナ

イヌブナの影響予測結果と確認状況を表 6-12 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるイヌブナの確認地点を図 6-13 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内の 6 地点、改変エリア境界から 60m 範囲内の 32 地点で確認された。

改変エリア内では、環境影響評価時に生育が確認され、造成工事により消失すると予測した 8 地点のうち、2 地点は予測結果のとおり消失したが、残りの 6 地点については、評価書では改変エリアとして設定していたが、工事を進めた結果、実際に改変した場所からは外れ、その後も生育していることが確認された。

また、改変エリア境界から 60m 範囲内では、環境影響評価時よりも多くの地点で本種の生育を確認したことから、事業による間接的な影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

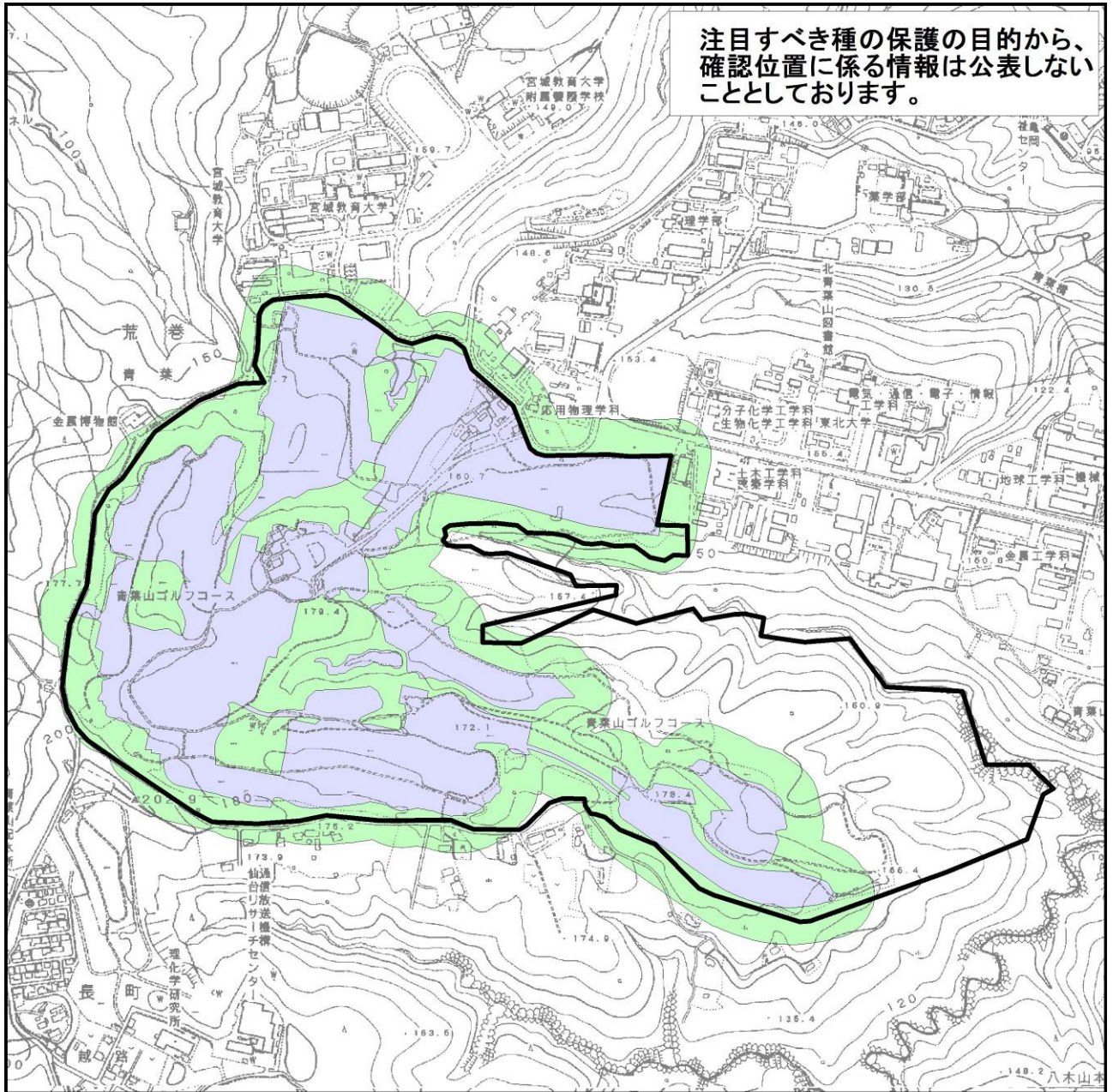
なお、本事業では、対象事業実施区域での保全地域の確保に努め、既存樹林地を極力残しており、本種の生育環境の維持に努めている。事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲内で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-12 影響予測結果と確認状況（イヌブナ）（植物：7/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	改変エリア境界から 60m 範囲
イヌブナ	生育地点での地形の改変などにより 84 地点*1 のうち 6 地点*2 が失われる。保存される生育地点の中には ████████ や、██████ に近い林縁部のものも確認されていることから、間接的な影響は少ないものと考えられる。	影響小（影響個体が少ない）	環境影響評価（H17）	6*2	30
			供用後の事後調査（H25）	6	32




*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。

*2 評価書では 8 地点で確認と記載していたが、再度、調査データを精査した結果、6 地点での確認であった。



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
 -  イヌブナ
- H17確認種
 -  イヌブナ

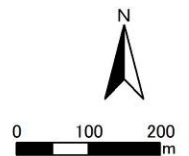


図 6-13 イヌブナ確認地点

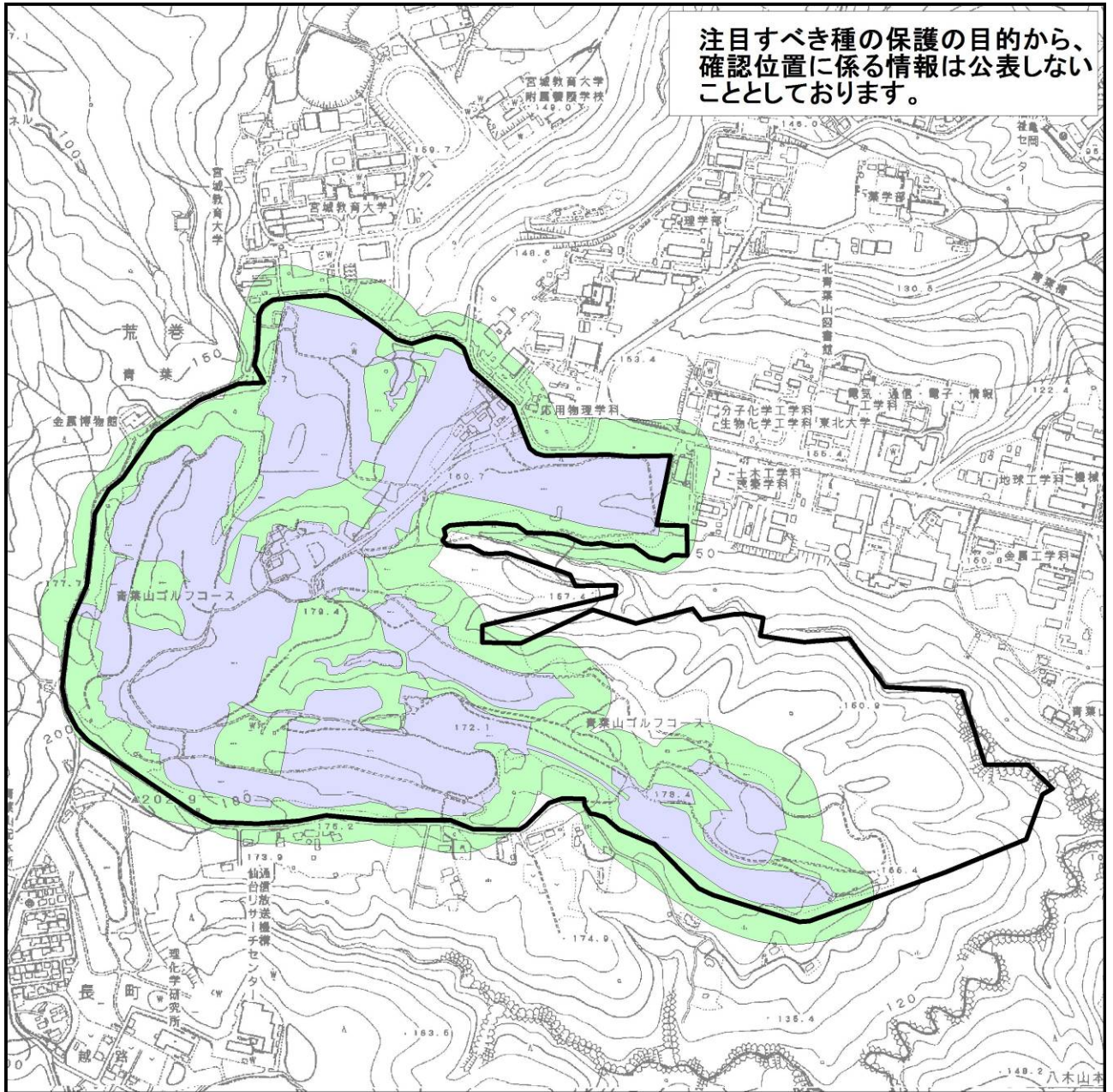
(ク) アカガシ

アカガシの影響予測結果と確認状況を表 6-13 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるアカガシの確認地点を図 6-14 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア境界から 60m 範囲の 1 地点で確認され、環境影響評価時に確認された地点と同じであった。予測結果のとおり、事業による本種への影響はなかったと考えられる。

表 6-13 影響予測結果と確認状況（アカガシ）（植物：8/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
アカガシ	生育地点での地形の改変はなく、直接的影響はないと考えられた。唯一の生育地点は既存の樹林境界から■■■■の地点にあり、良好な生育を示していることから、間接的な影響は少ないものと考えられる。	ほとんど影響なし（改変エリア内やその周辺に生育地がない種、改変エリア周辺に生育地があるが環境の変化が少ない種など）	環境影響評価（H17）	0	1
			供用後の事後調査（H25）	0	1



凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
- アカガシ
- H17確認種
- アカガシ

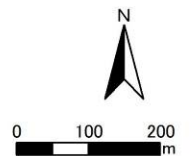


図 6-14 アカガシ確認地点

(ケ) シラカシ

シラカシの影響予測結果と確認状況を表 6-14 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるシラカシの確認地点を図 6-15 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内及び改変エリア境界から 60m 範囲では確認されなかった。ただし、改変エリア境界から 60m を越えた場所の 1 地点で本種の生育が確認された。

改変エリア内では、環境影響評価時に確認された 1 地点は、予測結果のとおり、事業により消失した。

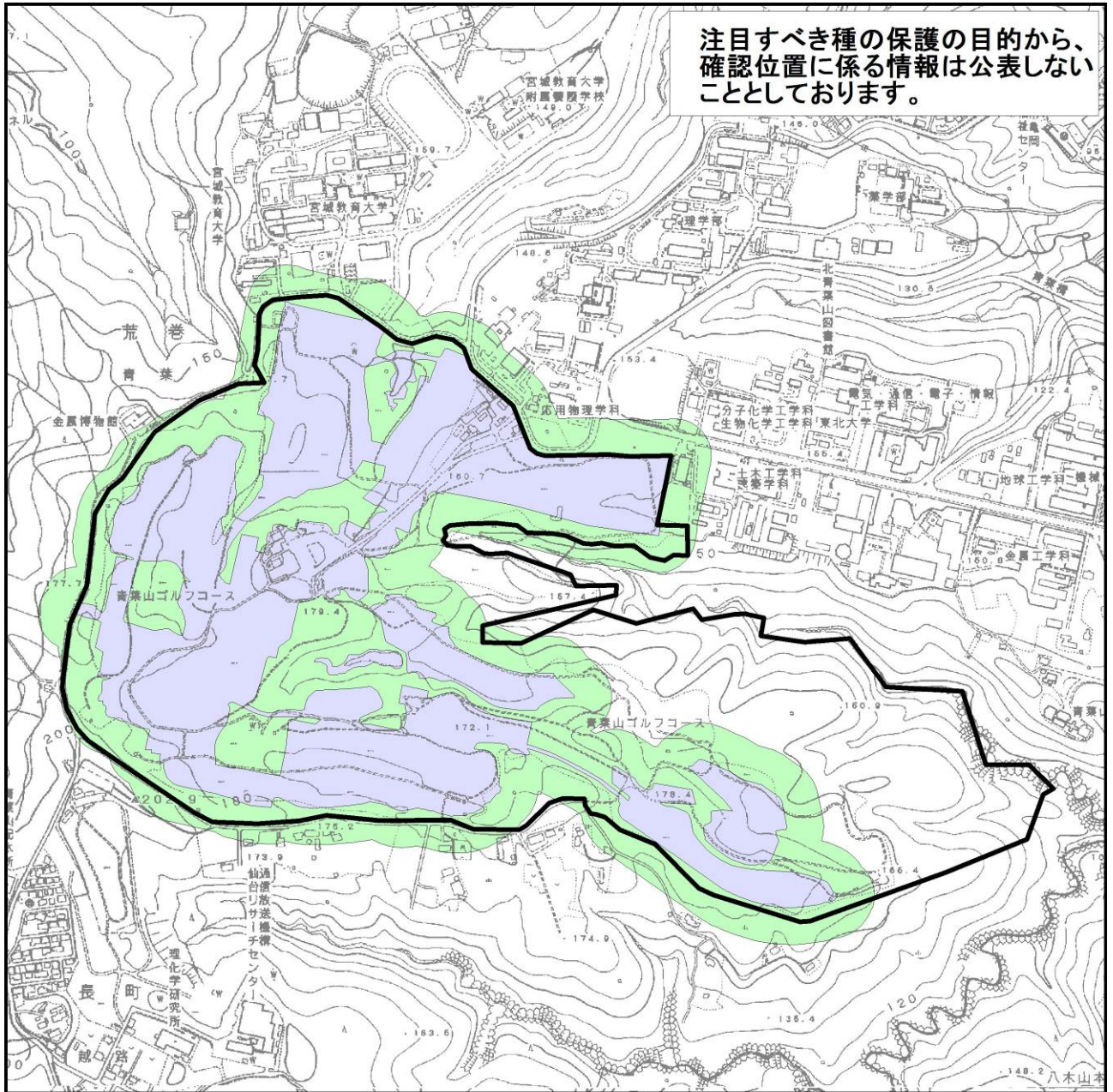
改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時に確認された 1 地点は、マツノザイセンチュウ防除作業（周辺アカマツを伐採）を実施したことから、環境がアカマツ林からクズ等のつる植物からなる草地に変化した。この環境変化に伴い、本種は自然に衰退し消失した可能性が高いと考えられる。

一方で、改変エリア境界から 60m を越えた場所で本種の生育が確認されており、種の保存は図られていると考えられる。また、本事業では、対象事業実施区域での保全地域の確保に努め、既存樹林地を極力残しており、本種の生育環境の維持に努めている。事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲内で最大限の低減措置が図られていると考えられる。




表 6-14 影響予測結果と確認状況（シラカシ）（植物：9/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
シラカシ	生育地点での地形の改変などにより 11 地点*1のうち 1 地点が失われる。保存される生育地点の中には既存の [] に生育しているものがあることから、間接的な影響は少ないものと考えられる。	影響小（影響個体が少ない）	環境影響評価（H17）	1	1
			供用後の事後調査（H25）	0	0

*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。



凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
 -  シラカシ
- H17確認種
 -  シラカシ

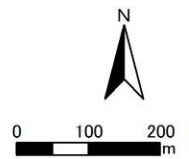


図 6-15 シラカシ確認地点

(2) エノキ

エノキの影響予測結果と確認状況を表 6-15 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるエノキの確認地点を図 6-16 に示した。

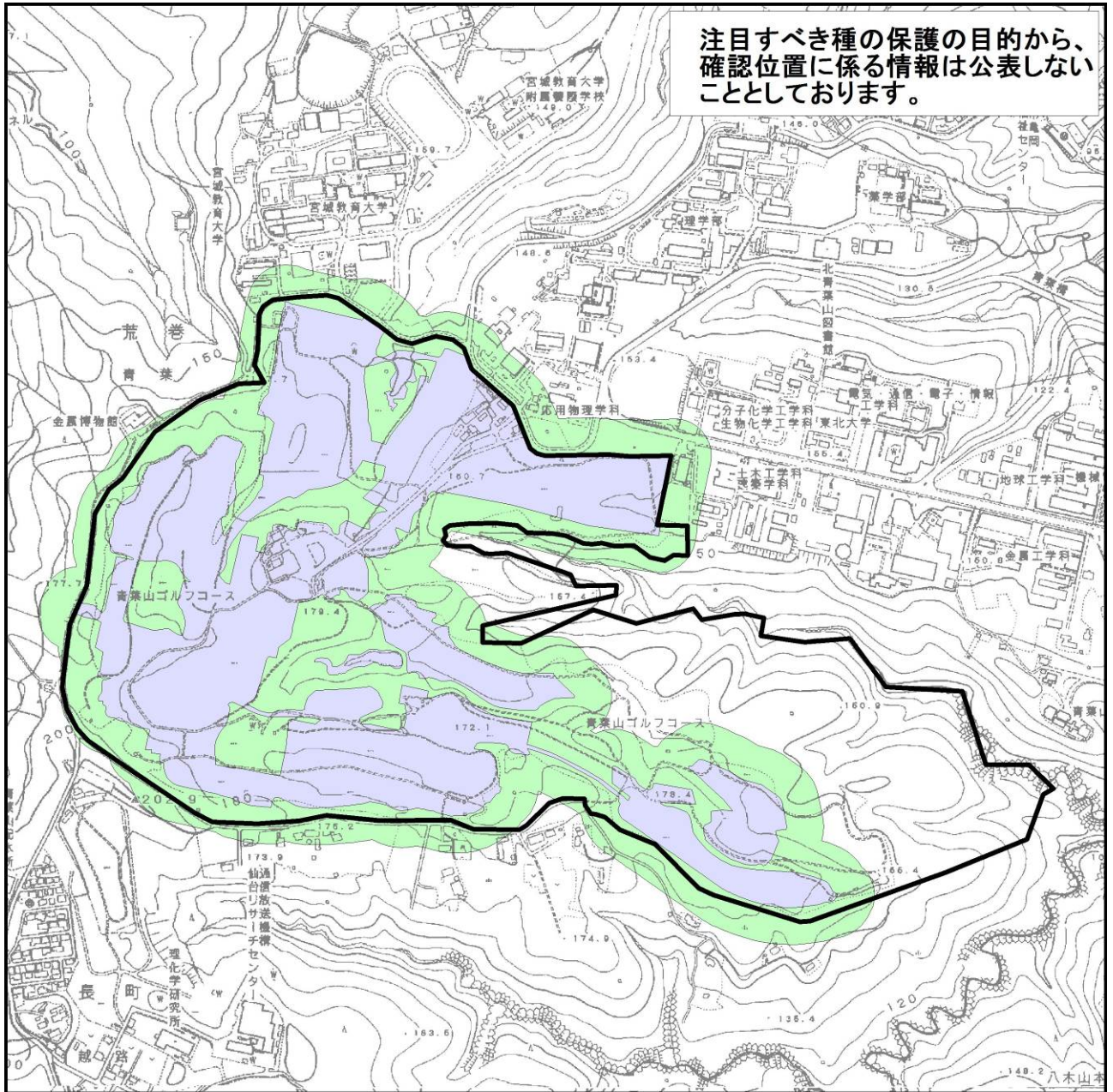
供用後の事後調査において、本種は確認されなかった。本種は、本来は暖温帯の向陽適潤地に生育する。環境影響評価時に本種が確認された環境は、[]であり本来の生育環境とは異なる。造成工事による本種の生育地点の地形改変はなかったが、付近の地形改変等に伴い生育地の環境が変化したことにより、環境影響評価時に確認された個体は、衰退し消失した可能性が高いと考えられる。

なお、本事業では、対象事業実施区域での保全地域の確保に努め、既存樹林地を極力残しており、残存緑地において本種の生育環境は確保されていると考えられることから、事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲内で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-15 影響予測結果と確認状況（エノキ）（植物：10/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		変更エリア内	界から60m範囲 変更エリア境
エノキ	生育地点での地形の改変はなく、直接的影響はないと考えられた。保存される生育地点の中には既存のゴルフコース [] に生育しているものがある*1ことから、間接的な影響は少ないものと考えられる。	ほとんど影響なし(変更エリア内やその周辺に生育地がない種、変更エリア周辺に生育地があるが環境の変化が少ない種など)	環境影響評価 (H17)	0	1
			供用後の事後調査 (H25)	0	0

*1 評価書では、ゴルフコース [] に生育しているとされたが、再検証の結果、 [] の樹林内に生育していたと考えられた。



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

H17確認種

- エノキ

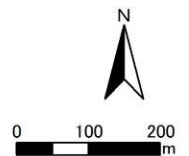


図 6-16 エノキ確認地点

(4) ザクロソウ

ザクロソウの影響予測結果と確認状況を表 6-16 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるザクロソウの確認地点を図 6-17 に示した。

供用後の事後調査では、本種は確認されなかった。

環境影響評価時に改変エリア内で確認された 1 地点は、予測結果のとおり、事業により消失した。

改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時に本種が確認された環境は、ゴルフ場のコース内であった。その後、草地管理法が変わったことで環境が変化し、本種は自然に衰退し消失した可能性が高いと考えられる。

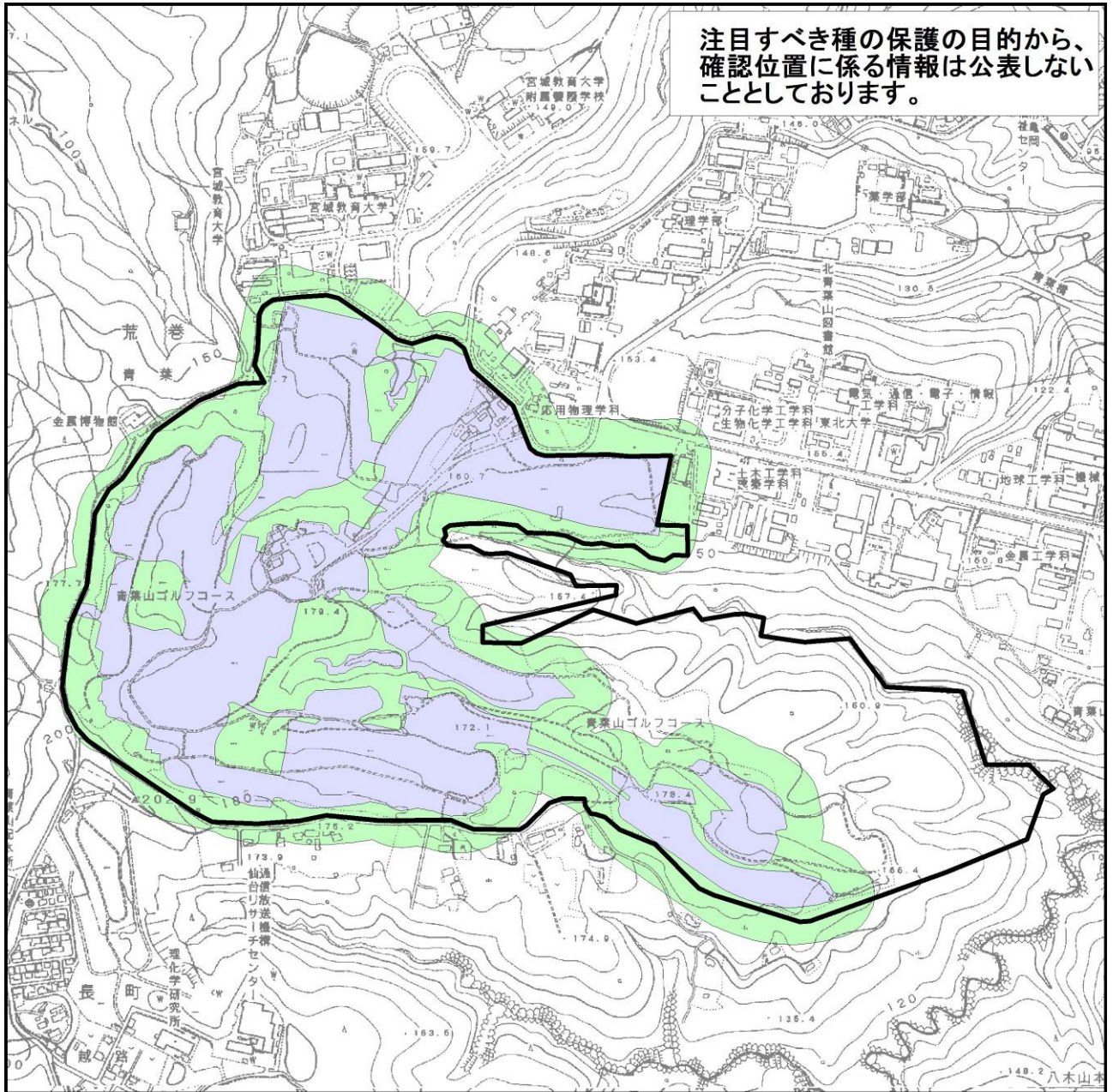
なお、本種は、ゴルフ場 [] によりもたらされた可能性が高く、環境影響評価時に確認された個体も、自然分布ではないと考えられたため、移植対象とはしなかった。

表 6-16 影響予測結果と確認状況（ザクロソウ）（植物：11/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
ザクロソウ	生育地点での地形の改変などにより確認されている 1 地点*1 が失われる（改変エリア内の生育個体）。本種はゴルフ場 [] に先駆的に侵入した一年草であり、そのような適所に移植、播種をすることにより、種の保存を図る必要がある。*2	影響大（影響個体が多く、軽減措置も困難：生育地の消失率 20%以上の種）	環境影響評価（H17）	1	1
			供用後の事後調査（H25）	0	0

*1 評価書では 2 地点で確認と記載していたが、再度、調査データを精査した結果、1 地点での確認あった。

*2 人為的に持ち込まれたものである可能性が高いため、移植は行わないこととした。



凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

- H17確認種
- ザクロソウ

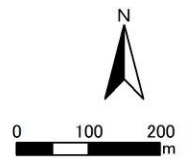
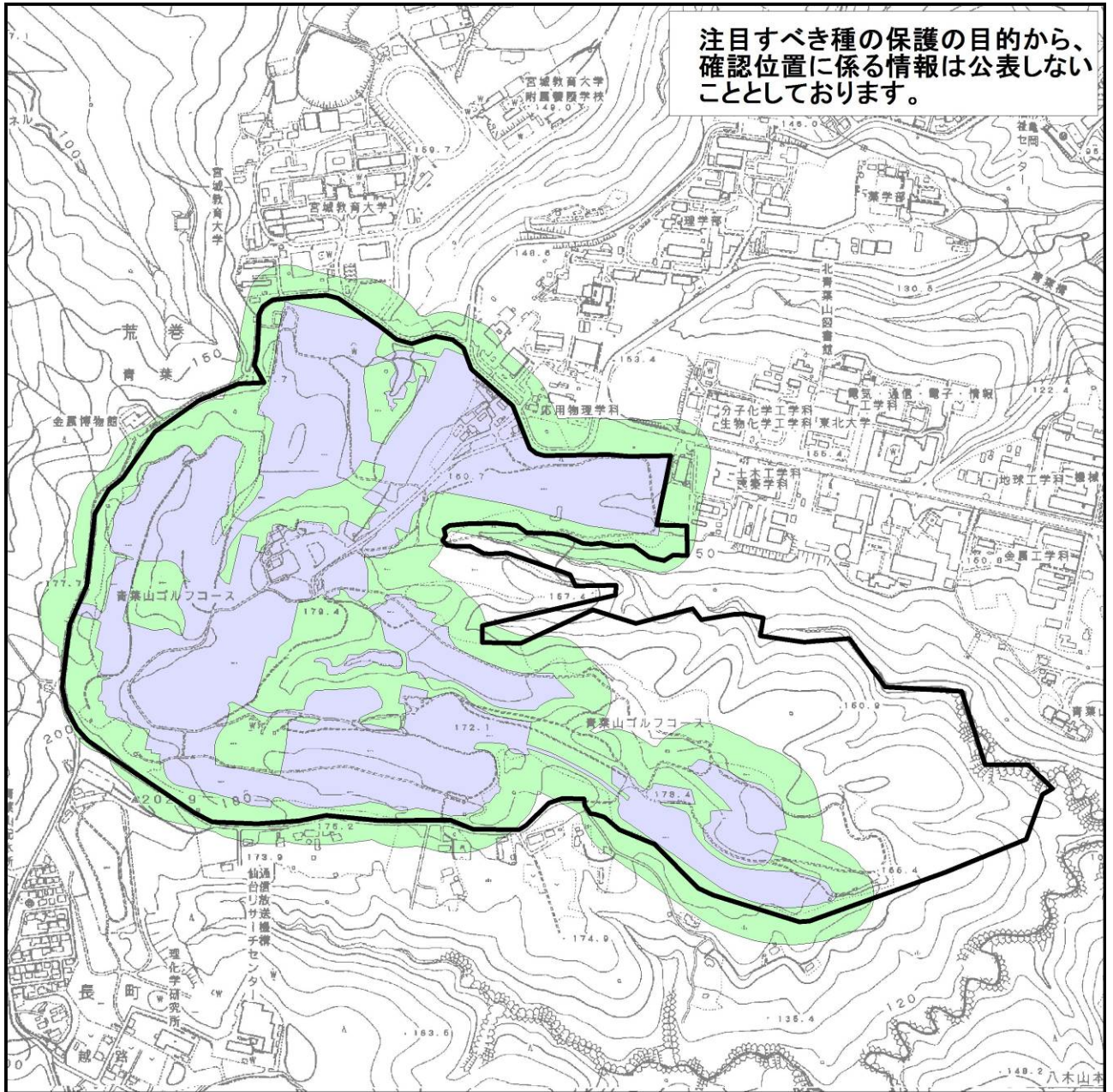





図 6-17 ザクロソウ確認地点



凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
 -  シロダモ
- H17確認種
 -  シロダモ

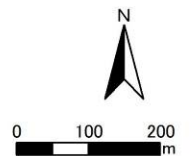


図 6-18 シロダモ確認地点

(ス) ザイフリボク

ザイフリボクの影響予測結果と確認状況を表 6-18 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるザイフリボクの確認地点を図 6-19 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内では確認されず、改変エリア境界から 60m 範囲の 1 地点で確認された。

改変エリア内では、環境影響評価時に確認された 1 地点（1 個体）については、地形改変により消失する可能性があったため、事業実施前の平成 20 年度に移植を行った。移植された 1 個体は、平成 25 年度移植モニタリング調査で生育状態が良好であり、種の保存が図られていると考えられる。

改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時と同じ地点で本種の生育を確認しており、事業による本種への間接的影響は、予測結果のとおりなかったと考えられる。

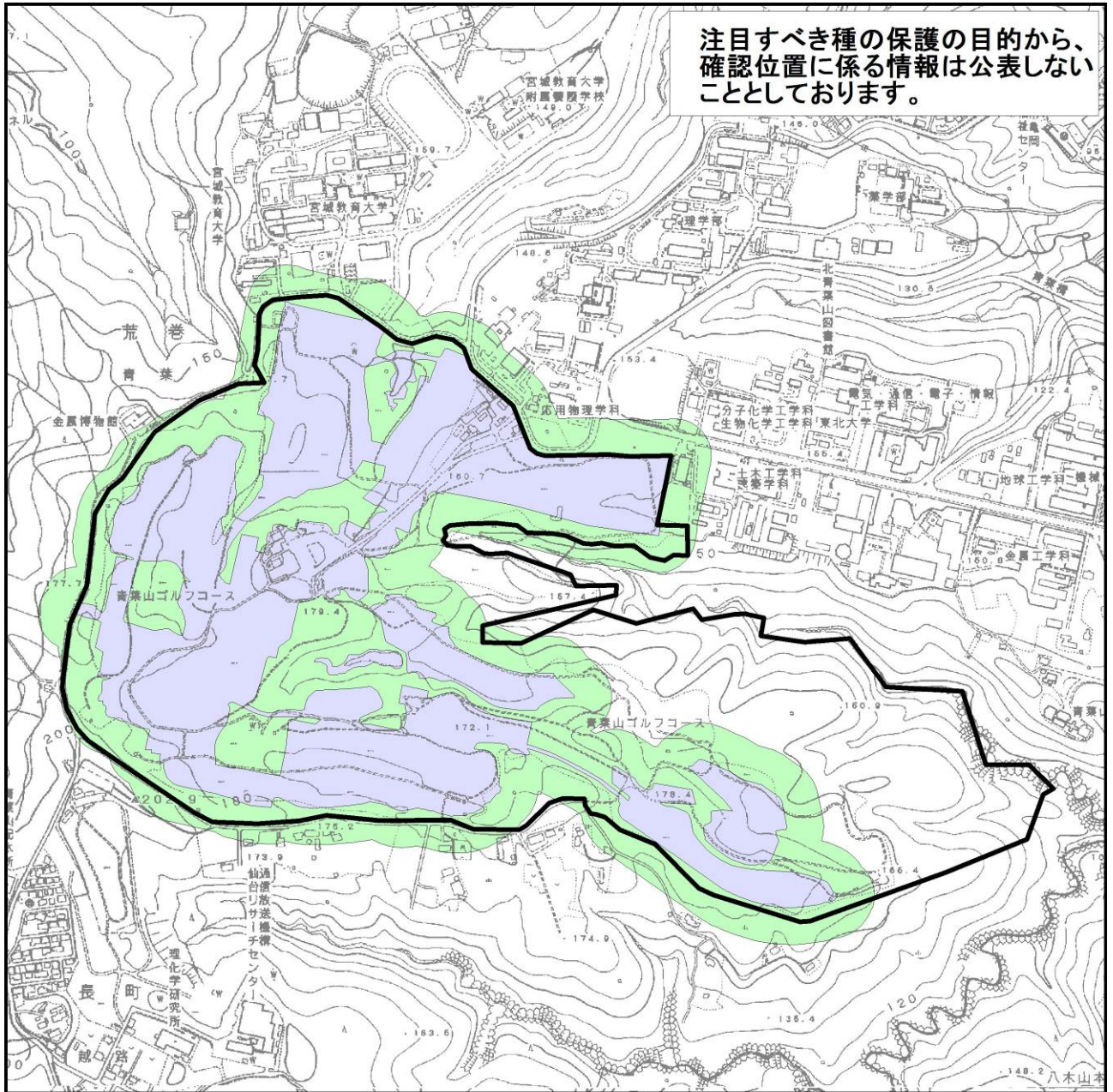
なお、本事業では、対象事業実施区域での保全地域の確保に努め、既存樹林地を極力残しており、残存緑地において本種の生育環境は確保されていると考えられることから、事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲内で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-18 影響予測結果と確認状況（ザイフリボク）（植物：13/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
				改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
	予測結果	影響の程度			
ザイフリボク	生育地点での地形の改変などにより 3 地点*1のうち 1 地点が失われる。消失が予測される個体については適所に移植し、種の保存を図る必要がある。生育地点は供用地域から 60m 以上離れていることから、保存される生育地点においては間接的影響はないと考えられる。	影響大（影響個体が多く、軽減措置も困難：生育地の消失率 20%以上の種）	環境影響評価（H17）	1	1
			供用後の事後調査（H25）	0	1




*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。

注) 移植を 1 個体に対して行った。なお、移植した個体は、供用後の事後調査の確認地点数には含めない。



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
 -  ザイフリボク
- H17確認種
 -  ザイフリボク

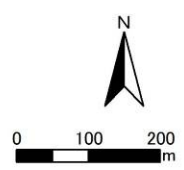


図 6-19 ザイフリボク確認地点

(セ) クサボケ

クサボケの影響予測結果と確認状況を表 6-19 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるクサボケの確認地点を図 6-20 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内の 1 地点、改変エリア境界から 60m 範囲内の 1 地点で確認された。

改変エリア内では、環境影響評価時に確認された 8 地点のうち 2 地点 (2 個体) については、地形改変により消失する可能性があったため、事業実施前の平成 20 年度に移植を行った (図 4-5 参照)。移植された 2 個体は、平成 25 年度移植モニタリング調査で生育状態が良好であり、種の保存が図られていると考えられる。なお、環境影響評価時に確認した残る 6 地点については移植前調査 (平成 20 年 5 月実施) で確認されず、消失した理由については不明であるが、ゴルフ場当時とは草地管理の違いがあるため、この影響が及んだ可能性は否定できない。ただし、その後の供用後の事後調査 (平成 25 年実施) により、これら 6 地点のうちの 1 地点で生育が確認された。この地点は、平成 20 年 5 月以降に生育が復活した地点と考えられた。

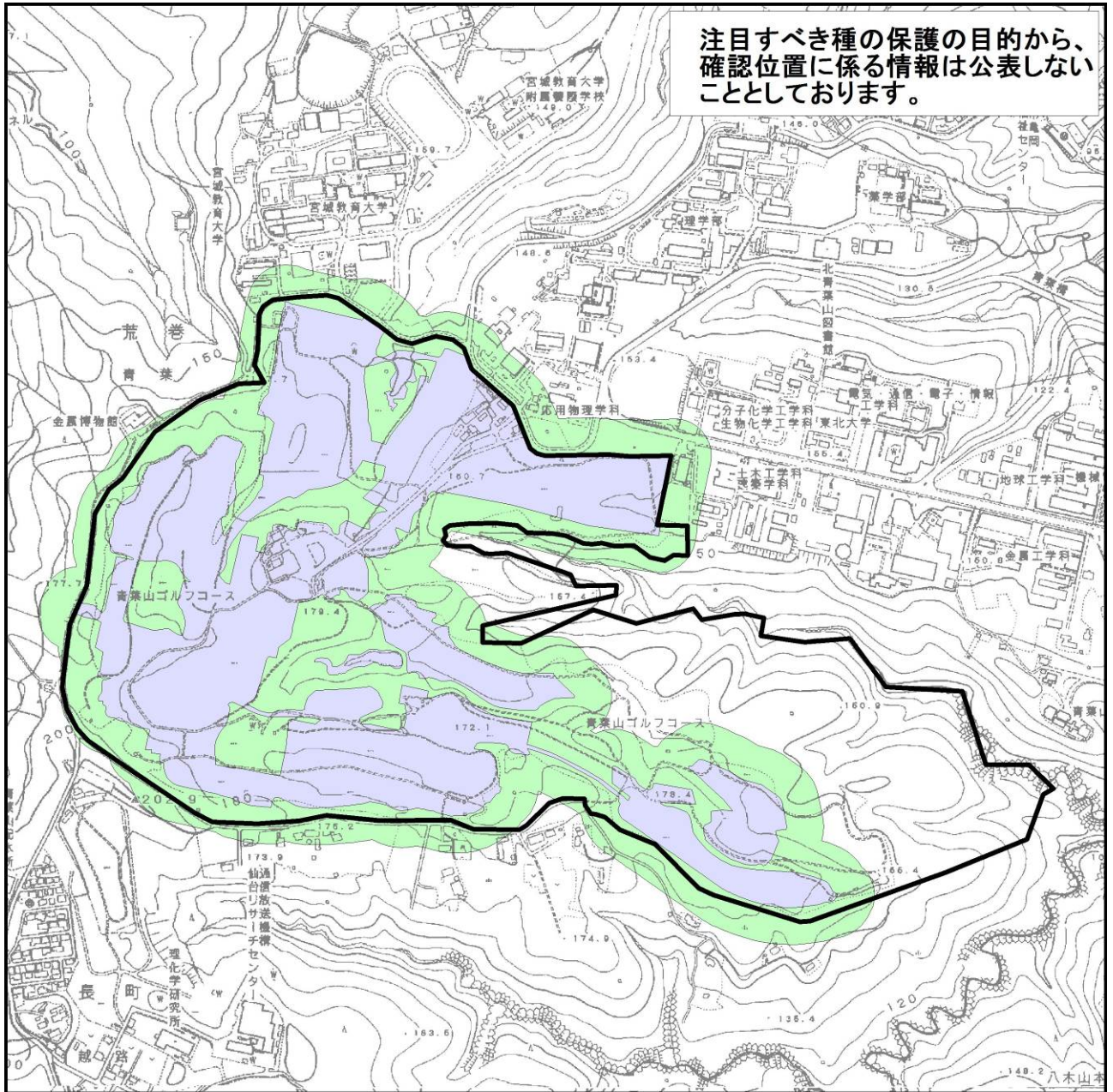
また、改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時と同じ 1 地点で本種の生育を確認しており、事業による本種への影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

表 6-19 影響予測結果と確認状況 (クサボケ) (植物 : 14/44)

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
クサボケ	生育地点での地形の改変などにより 12 地点*1のうち 8 地点が失われる。消失が予測される個体については、適所に移植し、種の保存を図る必要がある。保存される生育地点においては、従来どおりのシバ刈りなどの草地管理が継続されることにより、保存されることが考えられる。	影響大 (影響個体が多く、軽減措置も困難 : 生育地の消失率 20%以上の種)	環境影響評価 (H17)	8	1
			供用後の事後調査 (H25)	1	1




*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。

注) 移植を 2 個体に対して行った。なお、移植した個体は、供用後の事後調査の確認地点数には含めない。



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
 -  クサボケ
- H17確認種
 -  クサボケ

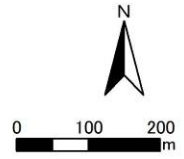


図 6-20 クサボケ確認地点

(7) テリハノイバラ

テリハノイバラの影響予測結果と確認状況を表 6-20 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるテリハノイバラの確認地点を図 6-21 に示した。

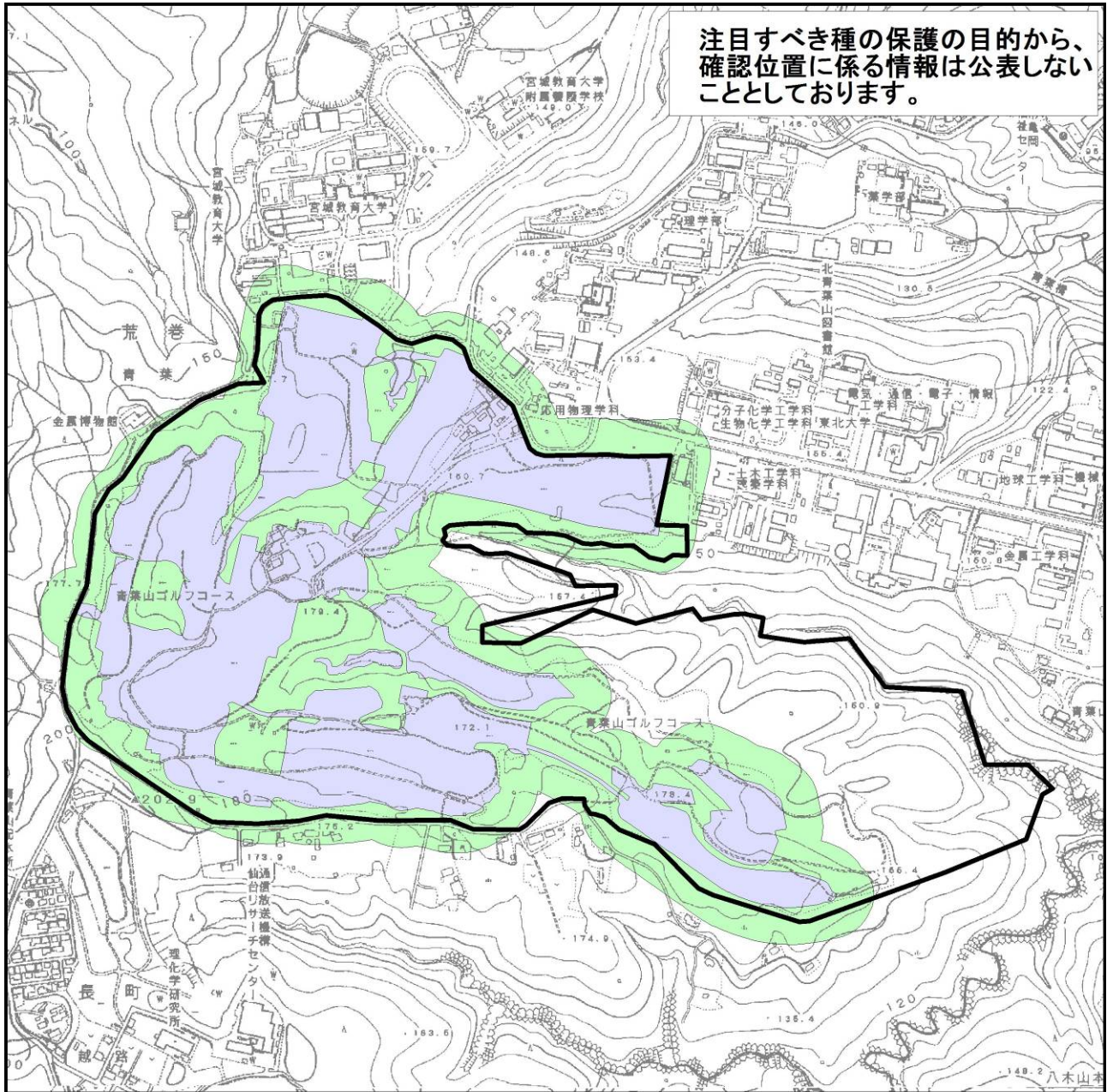
供用後の事後調査において、本種は確認されなかった。

改変エリア内では、環境影響評価時には1地点(3個体)での確認であったが、移植前調査(平成20年5月実施)により、環境影響評価時とは別の1地点(3個体)で本種を確認した。環境影響評価時に確認された地点及び移植前調査により新たに確認された地点に生育する計6個体に対して移植を行った(図4-5参照)。移植された6個体は、平成25年度移植モニタリング調査で生育状態が良好であり、種の保存が図られていると考えられる。

表 6-20 影響予測結果と確認状況(テリハノイバラ)(植物:15/44)

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から60m範囲 改変エリア境
テリハノイバラ	生育地点での地形の改変などにより確認された地点が失われる。林縁的な環境に生育する低木であり、消失の予測される個体については、適地に移植し、種の保存を図る必要がある。	影響大(影響個体が多く、軽減措置も困難:生育地の消失率20%以上の種)	環境影響評価(H17)	1	0
			供用後の事後調査(H25)	0	0

注) 移植を2地点(6個体)に対して行った。このうち、1地点は環境影響評価時に確認された地点であった。なお、移植した個体は、供用後の事後調査の確認地点数には含めない。



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

- H17確認種
- テリハノイバラ

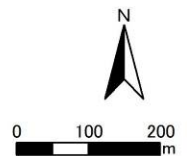


図 6-21 テリハノイバラ確認地点

(4) ヤハズエンドウ

ヤハズエンドウの影響予測結果と確認状況を表 6-21 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるヤハズエンドウの確認地点を図 6-22 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内の 2 地点、改変エリア境界から 60m の範囲の 4 地点で確認された。

改変エリア内では、環境影響評価時に確認された 5 地点のうち、移植前調査（平成 20 年 5 月実施）により 3 地点で確認され、これら 3 地点に対して移植を行った（図 4-5 参照）。移植された株は、平成 25 年度移植モニタリング調査で生育状態が良好であり、種の保存が図られていると考えられる。

また、本種は、刈り取り頻度の高い路傍に生える生態を持つことから、供用後の事後調査において改変エリア内で確認された 2 地点は、造成工事後に侵入した可能性が高いと考えられる。

改変エリア境界から 60m 範囲では、4 地点で本種を確認しており、事業による本種への間接的影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

表 6-21 影響予測結果と確認状況（ヤハズエンドウ）（植物：16/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
ヤハズエンドウ	生育地点での地形の改変などにより 19 地点*1のうち 5 地点が失われる。生育地の消失する個体群については種子採取後、適地への播種などにより、種の保存を図る必要がある。刈り取り頻度の高い路傍などに生える一・二年草であり、間接的影響は少ないと考えられる。	影響大（影響個体が多く、軽減措置も困難：生育地の消失率 20%以上の種）	環境影響評価（H17）	5	4
			供用後の事後調査（H25）	2	4

*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。

注) 移植を、改変エリア内の 3 地点に対して行った。なお、移植した個体は、供用後の事後調査の確認地点数には含めない。

(フ) メグスリノキ

メグスリノキの影響予測結果と確認状況を表 6-22 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるメグスリノキの確認地点を図 6-23 に示した。

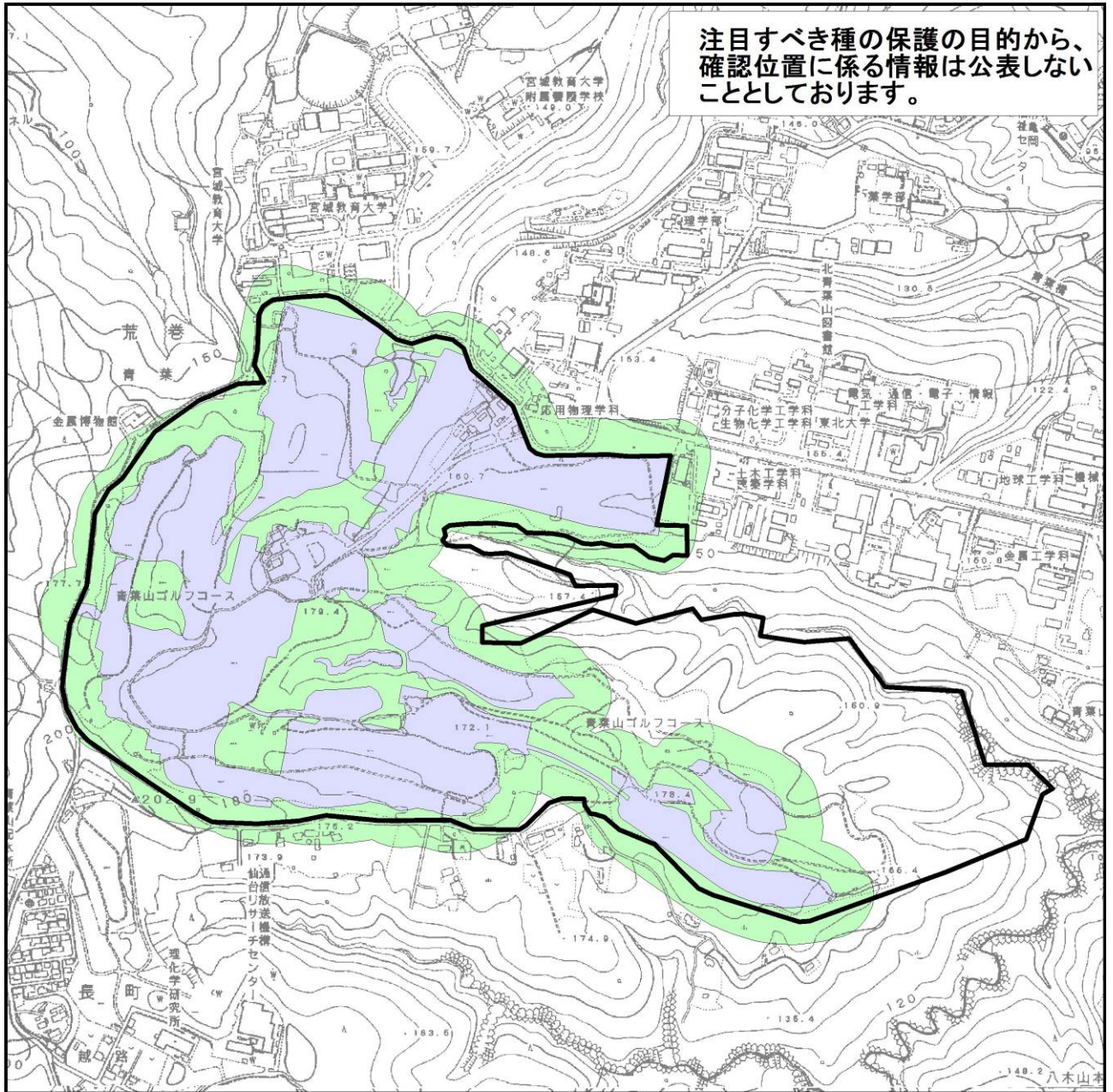
本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内では確認されず、改変エリア境界から 60m 範囲では 10 地点で確認された。

改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時よりも多くの地点で本種の生育が確認されており、事業による本種への間接的影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

なお、本事業では、対象事業実施区域での保全地域の確保に努め、既存樹林地を極力残しており、本種の生育環境の維持に努めている。事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲内で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-22 影響予測結果と確認状況（メグスリノキ）（植物：17/44）


種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
メグスリノキ	生育地点での地形の改変はなく、直接的影響はない。既存の生育地点では ████████ や林縁的な環境に生育する個体も多く、間接的な影響は少ないと考えられる。	ほとんど影響なし(改変エリア内やその周辺に生育地がない種、改変エリア周辺に生育地があるが環境の変化が少ない種など)	環境影響評価 (H17)	0	7
			供用後の事後調査 (H25)	0	10




注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

 対象事業実施区域

 変更エリア

 変更エリア境界から60m範囲

H25確認種

 メグスリノキ

H17確認種

 メグスリノキ

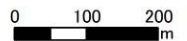


図 6-23 メグスリノキ確認地点

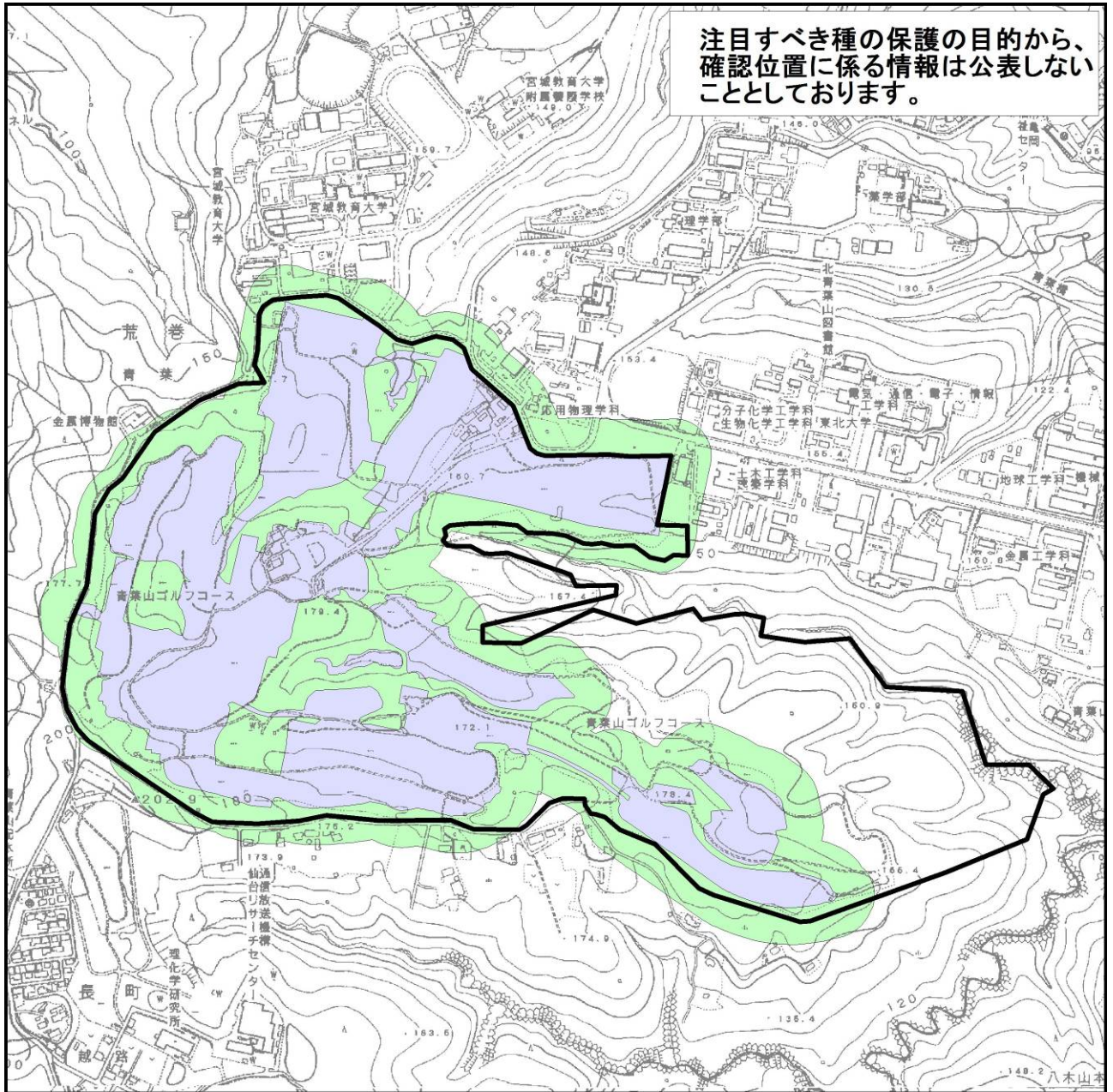
(ツ) モチノキ

モチノキの影響予測結果と確認状況を表 6-23 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるモチノキの確認地点を図 6-24 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア境界から 60m 範囲の 1 地点で確認され、環境影響評価時に確認された地点と同じであった。工事期間中に生育地の保存に留意したことから、事業による本種への影響は、予測結果のとおりなかったと考えられる。

表 6-23 影響予測結果と確認状況（モチノキ）（植物：18/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
モチノキ	生育地点での地形の改変はなく、直接的影響はない。改変エリアから ████████ の地点に生育地があることから、工事期間中は生育地の保存に留意する必要がある。	影響小（影響個体が少ない）	環境影響評価（H17）	0	1
			供用後の事後調査（H25）	0	1



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
- モチノキ
- H17確認種
- モチノキ

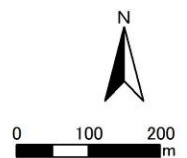


図 6-24 モチノキ確認地点

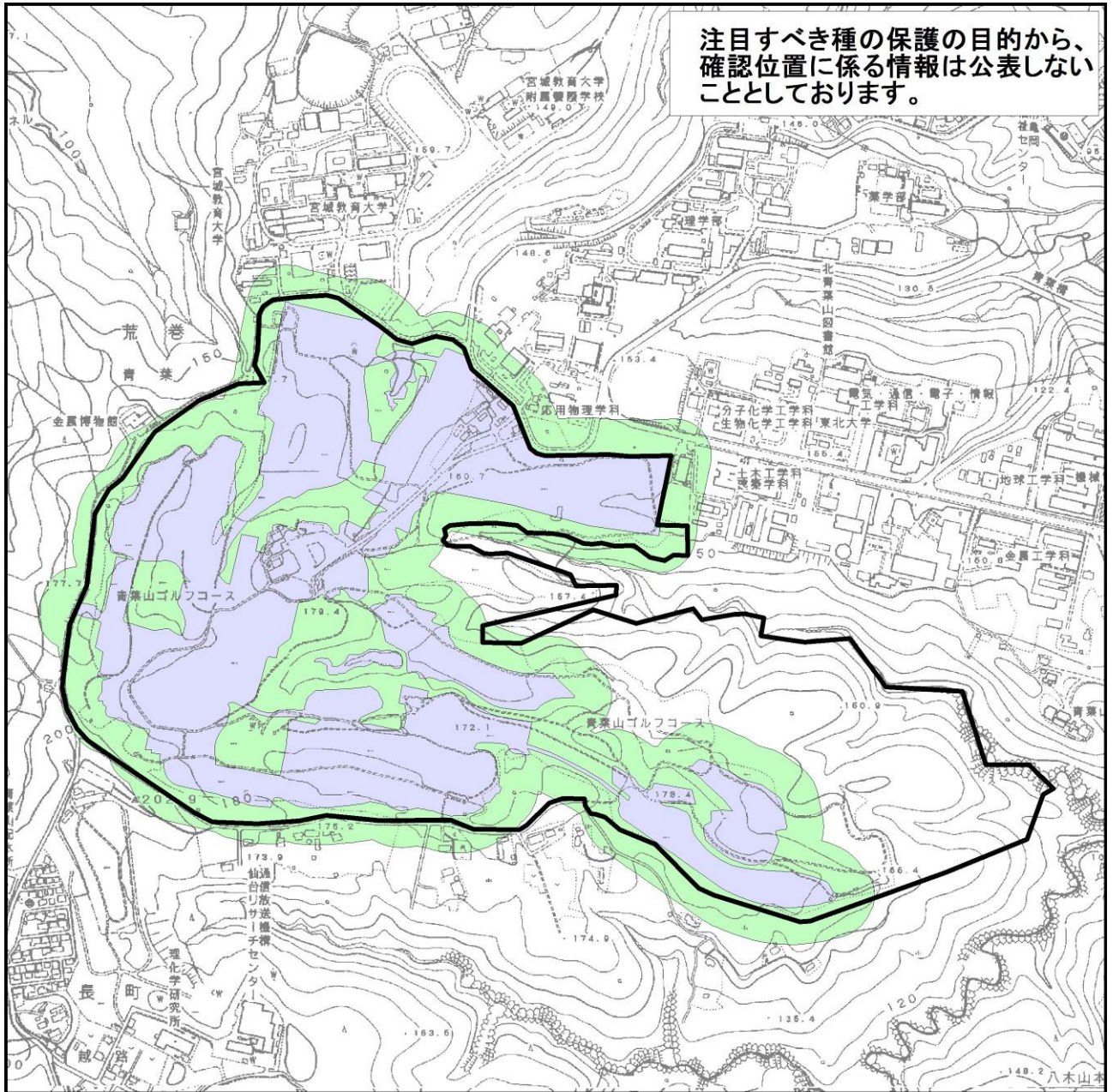
(7) オオナワシログミ

オオナワシログミの影響予測結果と確認状況を表 6-24 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるオオナワシログミの確認地点を図 6-25 に示した。

供用後の事後調査において、本種は確認されなかった。本種は、本来は本州の伊豆半島以西及び四国、九州に分布する植物である。環境影響評価時に確認された個体は、本来の地理的分布とは異なっていたため、その後自然に衰退し消失した可能性が高いと考えられた。あるいは、生育地が改変エリアから ■■■ の地点と近いため、生育地の地形改変はなかったものの、付近の地形改変等により生育地の環境が変化し、本種の生育に影響が及んだ可能性も考えられる。ただし、本事業では、既存樹林地を極力残すことで、本種の生育環境の維持に努めている。事業による本種への影響は、事業者の可能な範囲内で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-24 影響予測結果と確認状況（オオナワシログミ）（植物：19/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
				改変エリア内	界から60m範囲 改変エリア境
	予測結果	影響の程度			
オオナワシログミ	生育地点での地形の改変はなく、直接的影響はない。改変エリアから■■■の地点に生育地があることから、工事期間中は生育地の樹木の保存に留意する必要がある。海岸付近の先駆性の強い低木種であることから、供用後の間接的な影響は考えられない。	影響小（影響個体が少ない）	環境影響評価（H17）	0	1
			供用後の事後調査（H25）	0	0



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

H17確認種

- オオナワシログミ

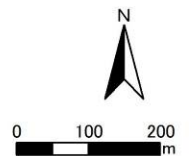


図 6-25 オオナワシログミ確認地点

(ト) フモトスミレ

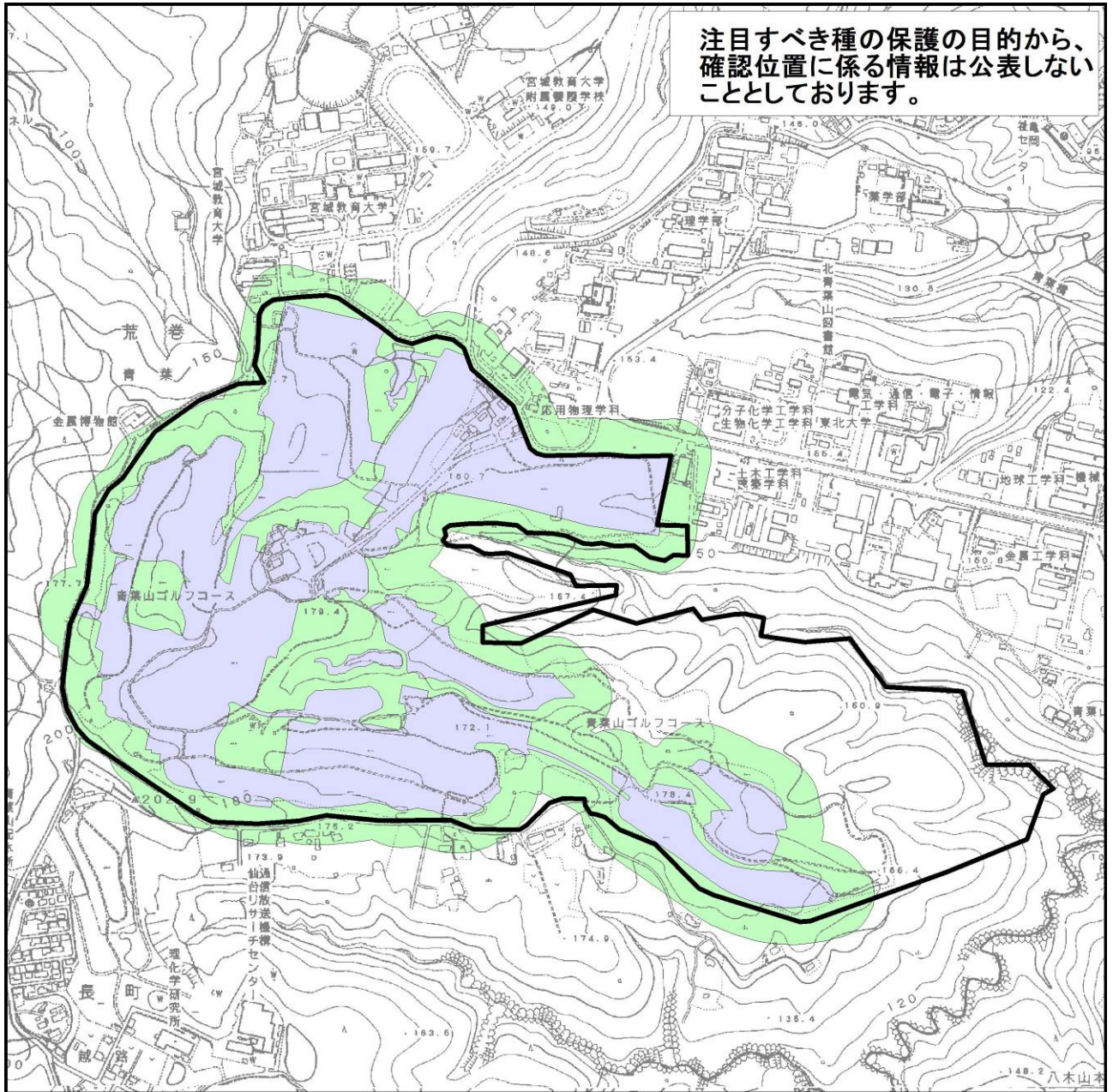
フモトスミレの影響予測結果と確認状況を表 6-25 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるフモトスミレの確認地点を図 6-26 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア境界から 60m 範囲内の 2 地点で確認された。

本種は、本来は草原や林床が開けた落葉広葉樹林の林下等に生育する。環境影響評価時において確認された個体は、ゴルフ場当時の [] に適応していたものと考えられ、供用後の事後調査における確認地点の減少は、予測結果のとおり、草地管理の違いによる影響が出たためと考えられる。今後さらに供用が進み、草地管理を適切に行うことで、本種にとって良好な生育環境が回復するものと考えられる。

表 6-25 影響予測結果と確認状況（フモトスミレ）（植物：20/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
フモトスミレ	生育地点での地形の改変はなく、直接的影響はない。生育地点の環境は [] であることから、草地管理の違いにより消失する可能性があるが、既存の大学周りの草地管理の頻度で刈り払いが実施されているならば、影響は少ないと考えられる。	ほとんど影響なし(改変エリア内やその周辺に生育地がない種、改変エリア周辺に生育地があるが環境の変化が少ない種など)	環境影響評価 (H17)	0	4
			供用後の事後調査 (H25)	0	2



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
- フモトスミレ
- H17確認種
- フモトスミレ

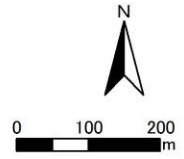


図 6-26 フモトスミレ確認地点

(ナ) ナガハシスミレ

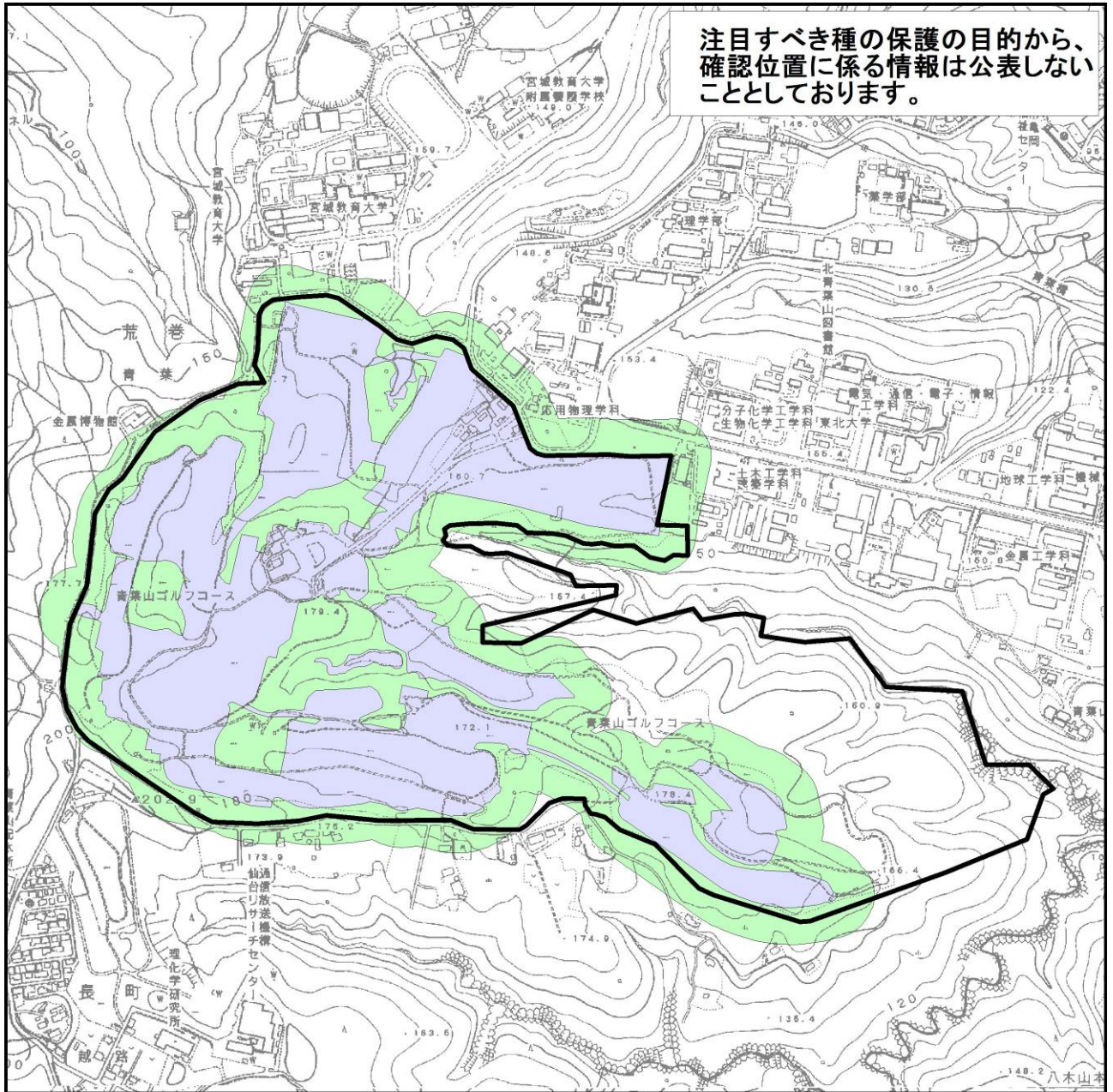
ナガハシスミレの影響予測結果と確認状況を表 6-26 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるナガハシスミレの確認地点を図 6-27 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内では確認されず、改変エリア境界から 60m 範囲の 2 地点で確認された。

改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時よりも多くの地点で本種を確認しており、事業による本種への間接的影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

表 6-26 影響予測結果と確認状況 (ナガハシスミレ) (植物 : 21/44)

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
ナガハシスミレ	生育地点での地形の改変はなく、直接的影響はない。保存される生育地点の中には [] などに生育する個体群もあることから、間接的な影響は少ないものと考えられる。	ほとんど影響なし(改変エリア内やその周辺に生育地がない種、改変エリア周辺に生育地があるが環境の変化が少ない種など)	環境影響評価 (H17)	0	1
			供用後の事後調査 (H25)	0	2



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
 - ナгахасミレ
- H17確認種
 - ナгахасミレ

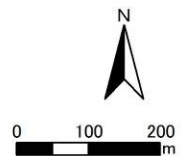


図 6-27 ナгахасミレ確認地点

(二) アブラツツジ

アブラツツジの影響予測結果と確認状況を表 6-27 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるアブラツツジの確認地点を図 6-28 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内の 1 地点、改変エリア境界から 60m 範囲の 21 地点で確認された。

改変エリア内では、環境影響評価時に確認された 1 地点 (2 個体) については、地形改変により消失する可能性があったため、事業実施前の平成 20 年度に移植を行った (図 4-5 参照)。移植された 2 個体は、平成 25 年度移植モニタリング調査で生育状態が良好であった。また、供用後の事後調査において、移植の対象とした地点とは別の地点で新たに本種の生育を確認した。

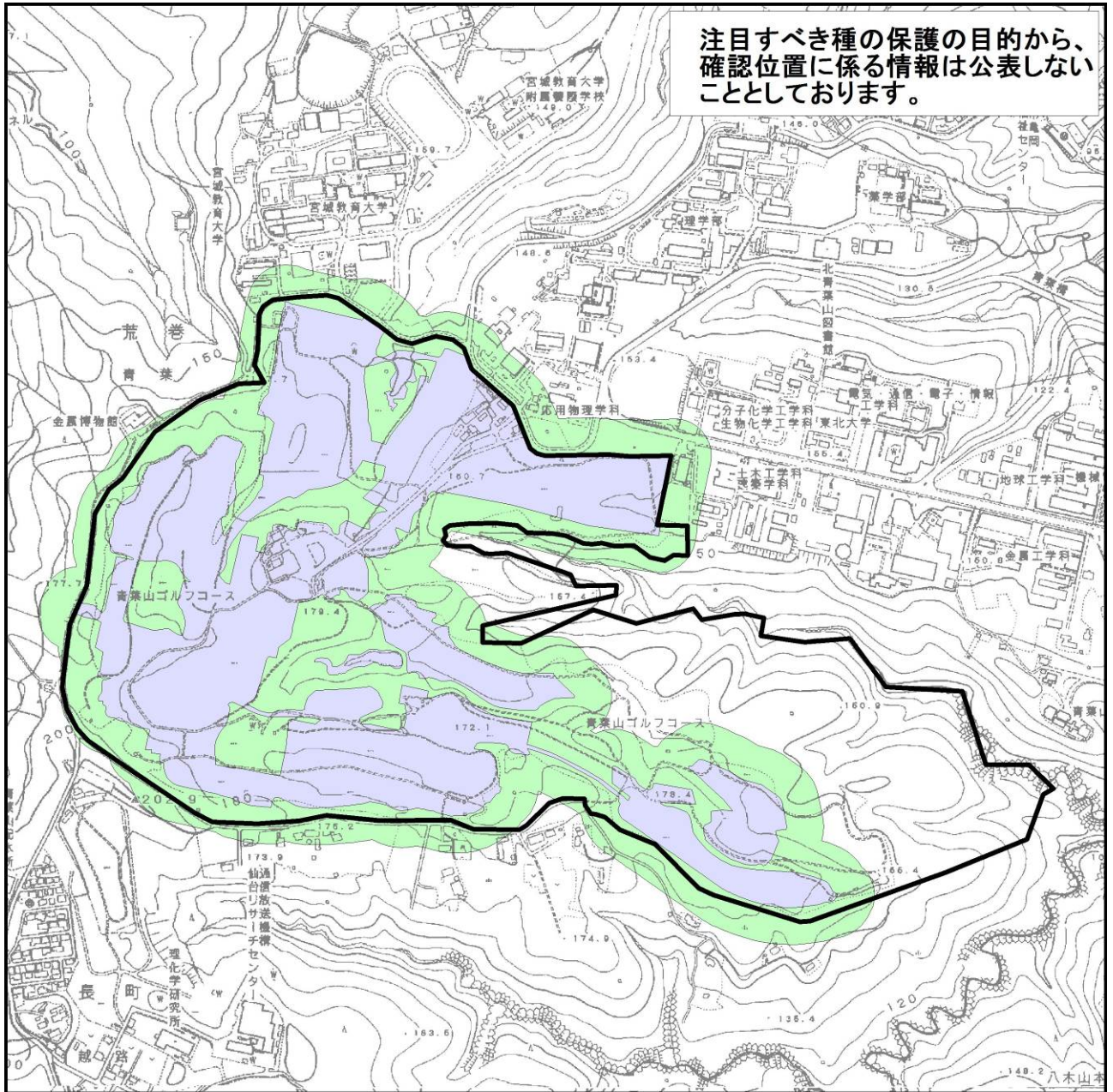
改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時よりも多くの地点で本種の生育を確認しており、事業による本種への間接的影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

表 6-27 影響予測結果と確認状況 (アブラツツジ) (植物 : 22/44)

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
アブラツツジ	生育地点での地形の改変などにより 68 地点*1のうち 1 地点が失われる。既存の生育地点では ████████ や林縁的な環境に生育する個体も多く、保存される生育地点においては、間接的な影響は少ないと考えられる。	ほとんど影響なし(改変エリア内やその周辺に生育地がない種、改変エリア周辺に生育地があるが環境の変化が少ない種など)	環境影響評価 (H17)	1	12
			供用後の事後調査 (H25)	1	21




*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。

注) 移植を、1 地点 2 個体に対して行った。なお、移植した個体は、供用後の事後調査の確認地点数には含めない。



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない
こととしております。

凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
 -  アブラツツジ
- H17確認種
 -  アブラツツジ

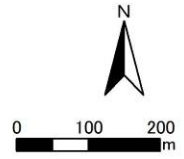


図 6-28 アブラツツジ確認地点